

第10回幼児教育実践学会

# 幼稚園における 特別な配慮を要する子どもと 保護者への支援とは



学校法人かもめ幼稚園

田中 美幸

1・はじめに

2・研究の目的

3・研究の方法

4・実践記録 Case 1 ~Case23

5・考察

研究のまとめと今後の課題

6・おわりに

# 1・はじめに





# (1) 本園の概要

## \* 本園の教育目標

ゆたかな心、やさしい子

みんなで仲よく、きまりのある子

よく遊び、よく学びとる子

自分でできる子、しようとつとめる子



(2) 2010年

鳥取大学医学部脳神経小児科の指定を受け  
**「発達障害児の早期療育における医療・  
保育の連携モデル事業」** が本園で実施された。

### (3) 園内の情報共有

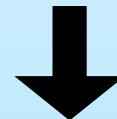
話し合いの場を隨時設けて園児・保護者ひとりひとりに対して職員が共通理解をする。

子どもの姿・保護者の願いや現状



定例の「成長を話す会」

日々の職員会での報告・学年会・など



幼稚園内での一貫した支援体制

## 2・研究の目的

実践研究を基に  
「幼稚園のできること」  
「発達課題のある子どもとその保護者へのかかわり」  
を4つの視点に着目して研究を進めた。

- 1 ・幼稚園が保護者と子どもに寄り添うこととは何か
- 2 ・個別支援と専門機関との連携
- 3 ・就学につなぐ
- 4 ・保護者としての自己有能感を支える場として  
の幼稚園とは

# 1・研究の方法

対象児：A児（女）3歳6ヶ月で入園

在園期間：201X年4月～201X+3年3月（3年保育）

保護者から入園時に情報提供は、なし  
入園後、3歳8ヶ月で診断・自閉症スペクトラム

3歳児健診後、医療受診・言語発達に課題があった。  
医療機関から児童発達支援センターへの通所を  
進められたが幼稚園に入園することを伝え経過観察。

## 《入園直後のA児の様子》

- ・保護者と離れることに不安がなく「お母さん」「お父さん」というフレーズに反応がない
  - ・気に入ったフレーズの言葉を発するが、意味のある発語はない。
  - ・CDデッキのスイッチや電子音を好む
  - ・トイレの便器の水に執着し、紙を詰めて水遊び、寝転ぶ
  - ・手洗い石鹼液で顔や髪を洗う
- など

保護者の姿・各機関との連携・幼稚園の介入



1期：ひとりを好む時期  
(年少4月～年少9月)

2期：大人を求める時期  
(年少10月～年中3月)

3期：集団の中で育つ時期  
(年長4月～年長3月)

## 3・実践記録

# 1期：ひとりを好む時期

(年少4月～年少9月)

## Case 1・入園式 年少4月

園の気づきが始まる

## Case 2・初めての提案「おかあさん」

親子関係の希薄さを感じる

## Case 3・整理力ゴ

### 《 目的 》

- ①A児の園の様子を家庭でも  
感じてもらいたい
- ②A児のトレーニングのため



## Case 4・写真ツール 年少 5月

### 《 目的 》

- ①A児の園の様子を家庭でも感じてもらいたい
- ②A児が今、興味を持っていることを  
両親に知ってもらう
- ③身近な物の写真から発語  
へつながるようにする



# 写真ツール



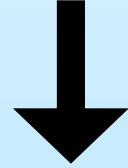








両親がA児の変化を身近に感じる



前向きなかかわりがうまれる

## Case 5 ・ 児童発達支援センター親子登園を紹介

年少 6月

## Case 6 ・ 児童発達支援センター親子登園の 見学に同行する 年少 7月

「Aの言葉を増やしたい、  
一学期このままで大丈夫だろうかと不安でいっぱいだった」

## Case 7・母親に相談 年少9月

### 《 目的 》

- ① A児の好きなものがあるので、  
その場所が安心できる場所になるため
- ② 両親に療育のアイテムを提案して  
もらうこと
- ③ 個別の配慮の必要性を両親が感じる

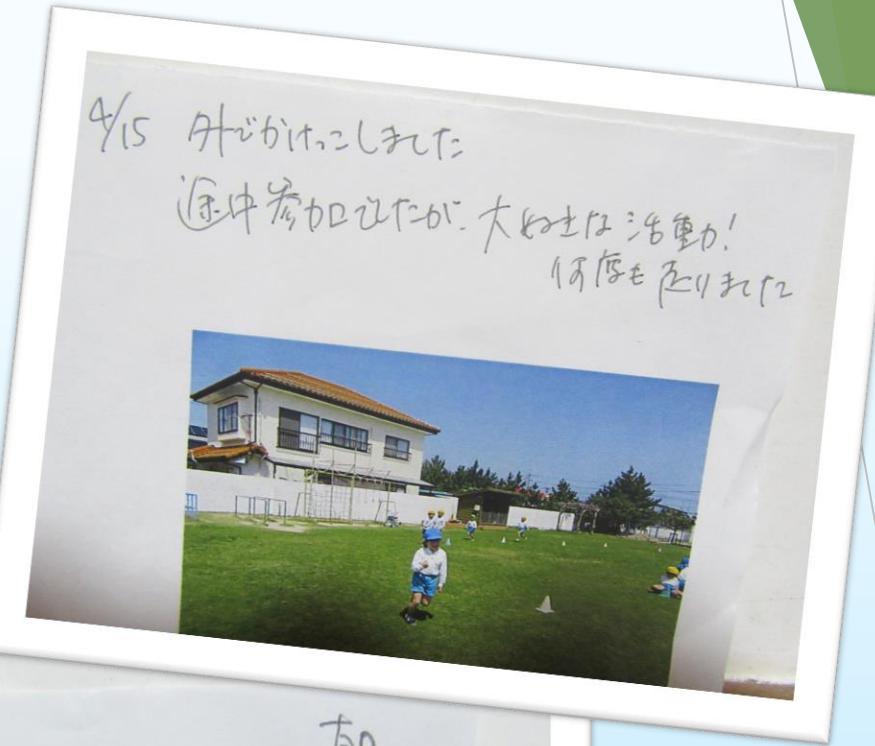
## Case 8 ・ 活動の写真

### 《 目的 》

- ① 両親が園での様子、活動を知る
- ② A児の活動している写真を見て、親子の会話を増やすため
- ③ A児が写真を見ることで、友だちに興味を持つきっかけを作る

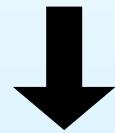


# 活動の写真

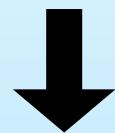


朝  
あさかわ  
1つずつ  
キレイ  
ホコロトに  
入る  
しゅれこ

親子のスキンシップ  
A児の気持ちの代弁



周りの友だち・活動に関心が広がる



両親がA児と向き合う楽しさを得る



## 2期：大人を求める時期 (年少10月～年中3月)

## Case 9・母親の変化

### 年少10月

児童発達支援センター ⇄ 両親 ⇄ 幼稚園  
が有効に機能し始める

### 年少2月

児童発達支援センターで他の母親と  
親しそうに話し子育てについて相談しあう  
母親の姿があった

Case10・鳥取大学 井上研究室より  
療育プログラムの依頼  
年少 2月

Case11・鳥取大学 井上研究室  
応用行動分析による  
個別の療育プログラムが開始  
年中 4月

Case12・集団参加を目的としたA児の役割

年中5月

Case13・名前カード

年中7月

Case14・ボーリングゲーム

年中9月

## 3期：集団の中で育つ時期 (年長4月～年長3月)

## 《年長組進級時のA児の様子》

- ・「～する」「したかった」と思いは伝えるが会話はできない
- ・友だちをモデルにし行動を真似することがある
- ・欲しいものがあると欲求を我慢できない
- ・こだわりが強く、思うようにならないと奇声を出す
- ・ひらがなの読み書きができる
- ・生活経験からイメージすることはできるが言葉からの理解は難しい

## Case15・就学選び研修会への参加 年長8月

## Case16・参観日のA児への配慮と母親の気持ち 年長9月

### 《 目的 》

- 1) A児が事前に練習することで活動をイメージして参加できる
- 2) A児の取り組み方を両親が知る

母親は...

**A児と友だちとの関係**に着目

## Case17・地域小学校の特別支援学級を見学 年長9月

## Case18・就学前 決定「就学に向けての交流会」年長10月

### 《 目的 》

- 1) A児が小学校の雰囲気に慣れる
- 2) 両親が小学校の先生に会う
- 3) 交流でのA児の姿を通し小学校・  
両親・幼稚園と就学に向けての連携を  
深める

# Case19・サポートブックの作成 年長12月

氏名	内容	生年月日	記入日
①生活健康	発達の様子	保護者の願い・要望	園における支援
	<ul style="list-style-type: none"><li>毎朝、本県用のツール表を見、一日の活動力を正確読み込む。</li><li>身近整理は毎日同じ流れで行い丁寧にできる。</li><li>自分の靴を脱いだり靴を脱ぐのが活動力の途中で屏幕を行き</li><li>偏食がある。白飯、パン、肉・魚、野菜は食べる。</li><li>ロッカー・下駄箱は、上段の端に出し入れがしやすい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>小学校でも、慣れるまで毎日、同じやり方を優先してほしい。</li><li>一番最初に</li><li>・小学校では休憩中にトイレに行きます」と教え、説いてほしい。</li><li>・偏食があり、完食は難儀ですが、整理強いけず、食べ小物を食べさせてほしい。</li><li>・ロッカー・下駄箱は、上段の端にしてほしい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ツールの表示文字は6年字以内、イメージしにくい時は、活動する場所や、使う物を伝えるとよい。</li><li>・朝の片付けが終わってから、ツールを一端に石造りし、本県が「うん」と返事をすると、納得、理解し行動できる。</li><li>・完食するように「どちらが、完食、片付け、片付け、最後に好きな遊びという良い流れを作る。</li></ul>

両親は...

## A児の今の姿を ありのままに受容

・集団登下校は、員での送迎をすすめを許可してほしい。

(+)特に、おひきが慣習しきれいな、本県がイメージ有りでない  
おひきある。

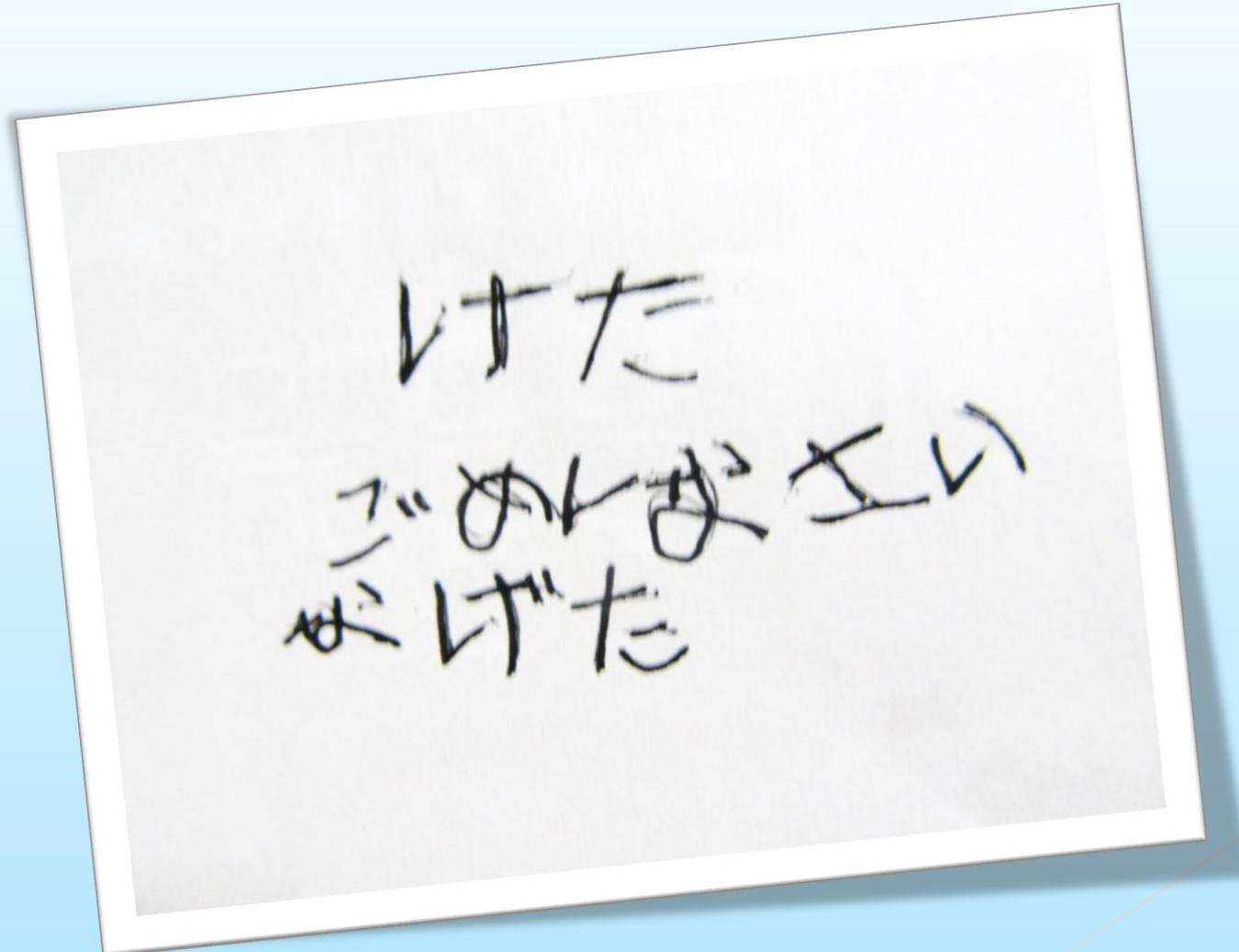
\*就学について意見・要望は上記のとおりです。

\*サポートシート、個別の教育支援計画を作成し、小学校に情報を提供することに同意します。

平成

保護者氏名:

## Case20・「ごめんなさい」気持ちを文字に 年長2月



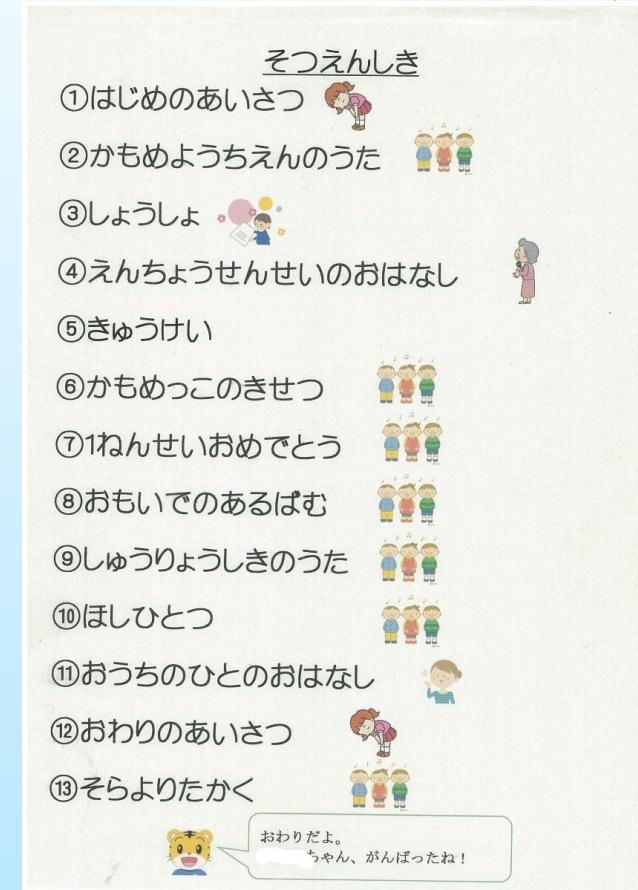
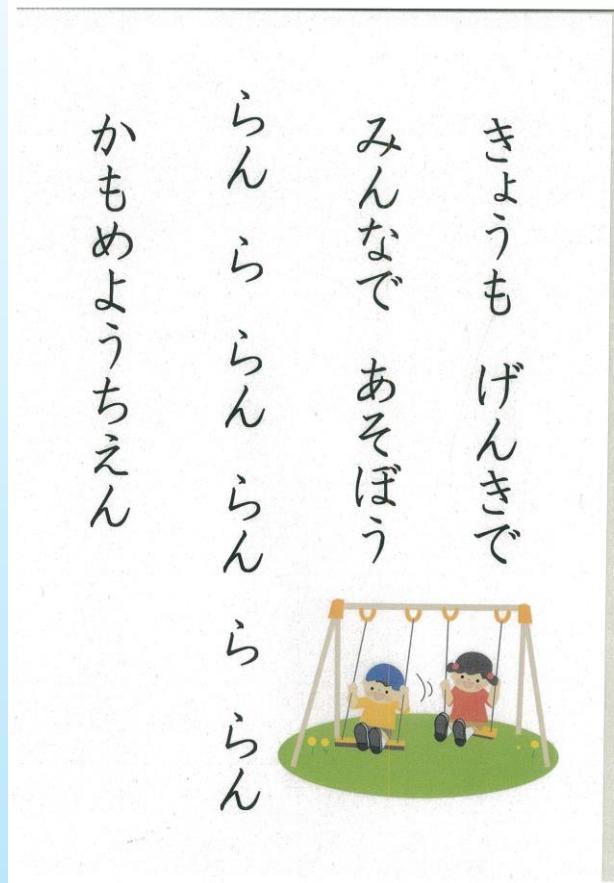
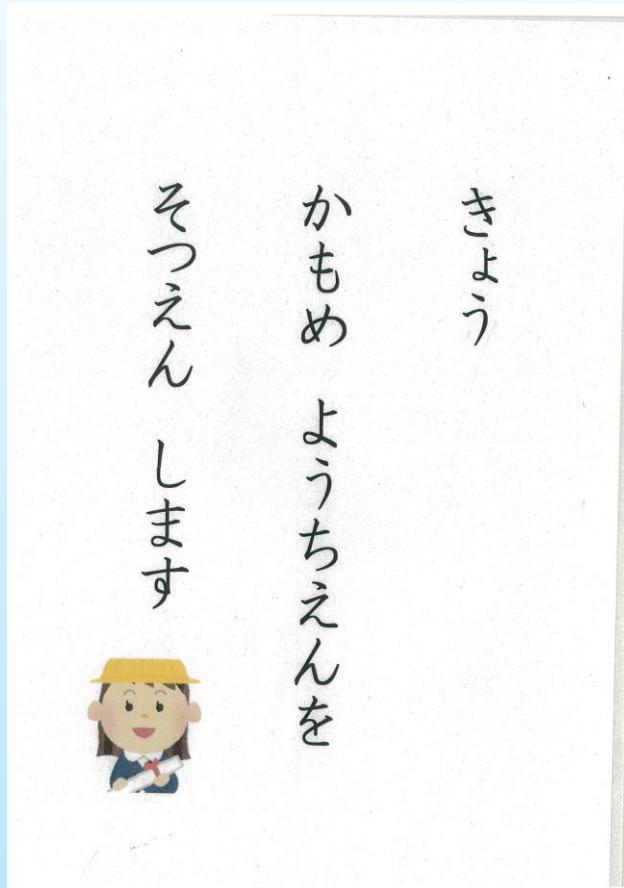
## Case21・A児の気持ち 年長3月

同じクラスの母親からの連絡

Aちゃんは友だちが好きで...  
大好きな人にはそうするの！  
だからもう、私は大丈夫！

～我が子がこんなことを思うんだと知り驚きました

## Case22・卒園式の配慮 年長3月



## Case23・支援の連携 就学後5月

「支援計画表」の内容確認

A児のこれから支援・内容・両親の要望を幼稚園と母親とで確認した。

## 5・考察

研究のまとめと今後の課題

## 2・個別支援と専門機関との連携

《幼稚園における個別支援とは》

周りとのつながりの中で  
「その子らしく生きること」

## 《専門機関との連携のいとぐち》

### ～子どもと保護者に関する支援会議のポイント～

- ①子どもの発達に応じて、どのような専門機関との連携が適しているのかを検討する。
- ②保護者に利用可能な専門的な支援の提供をする。
- ③必要に応じて幼稚園側が関係機関に同行する。

### 3・就学へつなぐ

幼稚園が  
関わる

保護者の安心感

保護者が子どもの  
発達の見通す

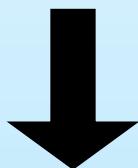
この子はこういう特徴  
を持っている。  
こういう生活が必要...

保護者自身の自信につながる・

子どもの発達にも影響

## 4・保護者としての自己有能感を支える場として

保護者が  
「子どもとの日々が楽しい」  
と思えること



子どもの成長を促す

# 幼稚園における 「子どもの発達段階に応じた個別支援および保護者支援の方法」

スタート：

**保育者が子どもの発達の課題に気づく**



Step 1：幼稚園が育児不安を共有する



Step 2：幼稚園として保護者と子どもに寄り添う



Step 3：個別支援・専門機関との連携



Step 4：就学へつなぐ

ゴール：

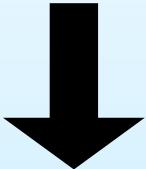
保護者として自己有能感を得る  
その子らしく育つ

幼稚園としての役割の構築

幼稚園内での一貫した支援体制

## ◆今後の課題①

幼稚園における発達に課題のある子どもの育ち



幼稚園側から専門機関や就学先などの  
関係機関に発信する必要性

## ◆今後の課題②

常に専門的な知識を学び、  
早期の段階で子どもや保護者に  
関わっていくこと

## 6・終わりに

ご清聴、ありがとうございました。

